

# ブルガリア人学習者の日本語アクセント

## — ケース・スタディー —

アントン・アンドレエフ

キーワード：日本語アクセント、ブルガリア人学習者、聞き取り、産出、中間言語

### 要旨

本研究は、ブルガリアの大学で学ぶ日本語専攻生を対象に行ったパイロット・スタディーにおいて、産出データを取ったサンプル中から聞き取り能力が最も高い者と最も低い者の結果を取り上げ、聞き取りと産出の傾向を調べたケース・スタディーである。聞き取りの低い者は、すべての単語を0型で発音する独特の補償ストラテジーを持つが、重音節にアクセント核を置いたり、重音節があるかのように聞き取ったりするという中間言語的なルールは両者ともある程度持っている。産出においては、聞き取り能力とは無関係な、独自の中間言語ルールの存在が窺える。

### 1. はじめに

ブルガリア人は、果たしてどのように日本語のアクセントを聞き取り、どのような発音をしているのだろうか。どのようなアクセント型が聞き取りやすく、どのようなアクセント構造が聞き取りにくいのか。重音節の有無、種類、位置は聞き取りに何かの影響を与えるのか。また、ブルガリア人が産出する音声はどのような特徴を持ち、日本語話者にどのように認識されているのだろうか。さらに、聞き取りと産出との間になんらかの関係はあるのだろうか。本稿では、ブルガリアの大学で学ぶ学習者を対象に行ったパイロット・スタディーの中から聞き取り能力の高い者と低い者、2名の結果を取り上げ、聞き取りと産出の特徴について考察することにする。

### 2. 先行研究

外国人学習者の日本語アクセントを聞き取り面、生成面から調べた研究は数多く、被験者の母語背景もさまざまである。鮎澤他（1997）、船津・桐谷（1999）などでは、母語に

あるピッチ・パターンが比較的聞き取りやすいことが指摘されている。また、産出においても、助川（1999）では、母語干渉による傾向と、母語干渉では説明できない中間言語的な特徴の両方が報告されている。さらに、第2言語アクセントの聞き取りと産出を比較した Dimitrova（1999）では、聞き取りタスクの際に手がかりとされている音声パラメータが、産出の際にも強調されているなどという結論を出している。

### 3. ブルガリア語のアクセントについて

研究の目的に移る前に、ブルガリア語アクセントの特徴について簡単に紹介する。

音韻論の観点からみれば、ブルガリアのアクセントは、東京語アクセントと同様に、弁別機能を持った自由アクセントであり、2つ以上の音節から成る単語では、有ストレス音節の位置はそれぞれ決まっている。同じ分節音素から成る単語を区別する。しかし、1音節語がアクセントによって区別されないことと、有ストレス音節を持たない単語（日本語の「0型」に相当するもの）が存在しないことは、日本語とは異なる。つまり、ブルガリア語のアクセント体系は他の言語が持つ自由ストレスアクセントに似ている。

音声面においては、日本語とずいぶん異なる点がある。もっぱらピッチの変化によって実現される日本語アクセントに対して、ブルガリア語のアクセントは、ピッチ、強さ、持続時間、音色の同時作用によって、有ストレス音節が際立たされるのである。それらの中で、特に強さと持続時間を合わせた *amplitude integral* の説明力が大きいと Dimitrova(1999)はいう。いくつかのパラメータが補い合うアクセントのある母語を持ったブルガリア人が、ピッチが主要な手がかりとなる日本語のアクセントの習得で苦勞するのは十分予想できることである。(Stress-timed の性質が弱い<sup>(4)</sup>、いわゆる「音節(モーラ)リズム」言語のアクセントの聞き取りにくさについては、Dauer (1987) も論じている。)

## 4. 研究の目的と方法

### 4.1. 目的

本研究の目的は、ブルガリア人日本語学習者の中の聞き取り能力の高いものとそうでない者についてそれぞれの聞き取りと産出の傾向を探ってみることにある。そのために、聞き取り実験と産出実験を行い、産出実験の結果については、目標言語（日本語）のアクセント体系を基準とした記述を試み、一部の音声音を音響分析にかけた。

### 4.2. 方法

実験語は表1のとおりで、助川（1994）の中から、3モーラ語に限定し、選んだ。Andreev（2000）は、重音節がアクセント核を置いているように聞こえること、助川（1999）が、

重音節にアクセント核が置かれる傾向を指摘しているため、それぞれのアクセント型で可能なすべてのアクセント構造を持つ単語を選定した。なお、単語は体言に限定した。

#### 4.2.1. 聞き取り

実験語を、「これは○○○と読みます」というキャリアセンテンスの○○○に埋め込み、東京語話者（東京都出身、20代、女性）に読ませた。その録音を別の日本語話者（神奈川県出身、20代、女性）に音声を聞かせて、自然さを確認してもらい、各音声ランダムな順番で合計3回ずつ再生されるテープを作成した。

被験者に、日本語のアクセントについての説明とテストでは出題しない7つの単語による練習を行った後、できあがったテープを聞かせ、アクセント核の有無とその位置を判断させた。

#### 4.2.2. 産出

表1の単語に「です」をつけさせ、聞き取り実験と同じ順番で、各語一人3回産出させた。

#### 4.3.2. 実施

実験は、2002年6月3日に産出の部と6月13日に聞き取りの部を、それぞれソフィア大学の録音室と一般教室を利用して行った。

#### 4.2.3. 産出実験の判定

被験者の音声の記述は東京語話者（東京都出身、20代、女性：4.2.1の録音協力者と同じ者）に依頼し、行った。

表1 実験語

アクセント 音節構造	-3型**	-2型	-1型	0型
CVCVCV*	かのじょ (彼女) みどり (緑) まくら (枕)	こころ (心) おもちゃ あなた	ことば (言葉) あたま (頭) おとこ (男)	ひだり (左) てがみ (手紙) なまえ (名前)
CVRCV	くうき (空気) どうろ (道路) じゅうしょ (住所)		どうぐ (道具) れいぎ (礼儀) とうげ (峠)	ようじ (用事) びょうき (病) へいわ (平和)
CVCVR	じゅぎょう (授業) くろう (苦勞) うちゅう (宇宙)	けしょう (化) さとう (砂糖) じゆう (自由)		りょこう (旅) とけい (時計) りゆう (理由)
CVNCV	げんき (元気) ぜんぶ (全部) ぶんか (文化)		おんな (女) へんじ (返事) べんじょ (便)	りんご かんじ (漢字) さんぽ (散歩)
CVCVN	ごはん (ご飯) ぶぶん (部分) みかん (蜜柑)	にほん (日本) てほん (手本) にせん (二千)		しゃしん (写) じぶん (自分) ねだん (値段)
CVQCV	こっか (国家) いっか (一家) どっち		こっち むっつ (六つ) やっつ (八つ)	おっと (夫) みっか (三日) ざっし (雑誌)

\*C=子音; V=母音; R=長音 (の2つ目のモーラ); N=撥音; Q=促音

\*\*アクセント核の有無と位置; -3=後ろから3つ目のモーラ; -2=後ろから2つめのモーラ; -1=後ろから1つめのモーラ; 0=アクセント核無し

## 5. 対象者

産出データのあるサンプルの中から、聞き取り実験の正答率が最も高い者 (S) と低い者 (Y) を選んだ。2人とも、ソフィア大学で学ぶ日本学専攻生である。Yは2年生、Sは1年生である。日本語学習歴は1年ほど異なるが、日本語の文法・語彙の能力はほぼ同じである。2人のプロフィールは表2にまとめた。

表2 被験者のプロフィール

イニシャル	性別	所属	出身地	日本語学 習歴	日本語能 力測定 テストの得 点 <sup>注2</sup>	聞き取り実 験の 正答率
(産出サンプル の平均)	—	—	—	(14ヶ月)	(41%)	(50%)
Y	男	ソフィア 大学	ソフィア	21ヶ月	47%	37%
S	女	ソフィア 大学	スタラ・ ザゴラ	9ヶ月	43%	71%

## 6. 結果と考察

### 6.1. Yの場合

#### 6.1.1. Yの聞き取り

Yは、聞き取りの正答率は37%とかなり低く、日本語のアクセント型を聞き分ける能力が身につけているとはいいいにくい。同じ実験語でも、2通り、ときには3通りの回答をすることがある。

ある型を別の型と間違えているというより、アクセント型自体の音声イメージを持っておらず、そのときそのときの聴覚印象をもとに回答したように思われる。

CVCVCVの回答はばらつきが特に大きく、「てがみ」や「なまえ」のように、-2; -1; 0と、3通りの回答も見られる。他のアクセント型に比べて、CVCVCVの正答率が比較的低いのは(資料1参照)、有ストレス音節を思わせる重音節がないためではないだろうか。単語があいまいに聞こえてしまい、幾通りかの回答につながっている可能性がある。CVCVCVの型で、ゆれがなく、しかも正解であるのは、唯一「まくら」だけである。これは、アクセント核がラウドネスの高い広母音と一致し、後続の狭母音とのコントラストが聞き取りやすいからであろう。

全体的に、ゆれが最も小さいのは、重音節がある単語の-3型である(もともと、中には「どうろ」のように、-2と-3の間のゆれがある場合もあるが、-2が特殊モーラに当たる場合、音節自体ははずれていないわけである)。

1つ目のモーラに核がある単語の正答率が高いのは、Andreev (2000) でも指摘したよ

うに、原因として、明確なピッチ・ピークの存在が考えられる。また、同論文で述べたような、重音節に回答する傾向も見られる。たとえば、CVCVR のうちの 3 語が、-1 型と判定されている。この音節構造で、重音節に核があると聞く傾向は最も強いようである。軽音節より長く強い音節が、有ストレス音節に聞こえている可能性がある。

### 6.1.2. Y の産出

Y の産出サンプルでは、0 型と判定されたものが圧倒的に多く、89%にのぼる。よって、Y が特殊な発音傾向を持っていることは明らかである。おそらく、平坦なピッチで発音すれば、日本語らしい発音になるという思い込み、すなわち中間言語ルール<sup>③</sup>、があるのでないだろうか。図 1~4 からわかるように、単語のピッチ・パターンを見ると本来のアクセント型とは無関係に、日本語話者の 0 型 (図 5) よりも、ピッチ下降が小さい産出サンプルさえある (図 2~4)。

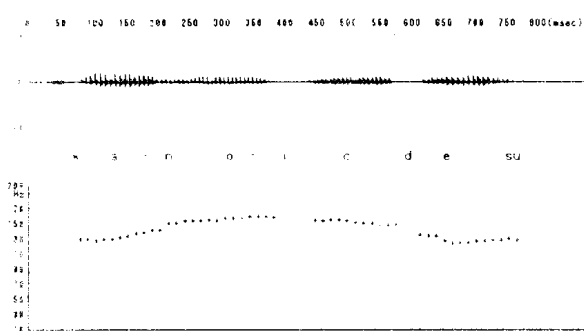


図1 Y: 「かのじょ」(判定: 0)

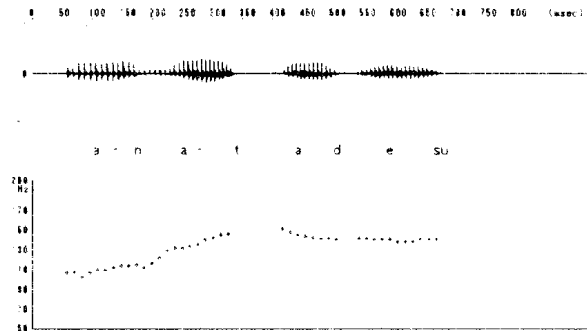


図2 Y: 「あなた」(判定: 0)

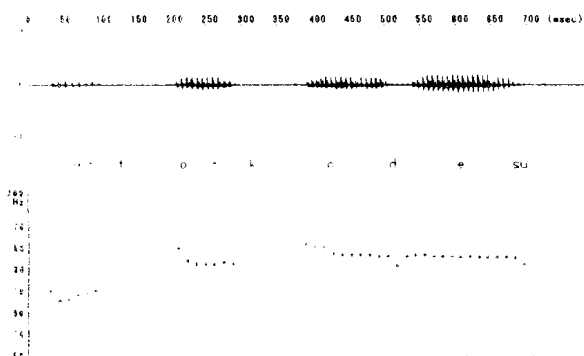


図3 Y: 「おとこ」(判定: 0)

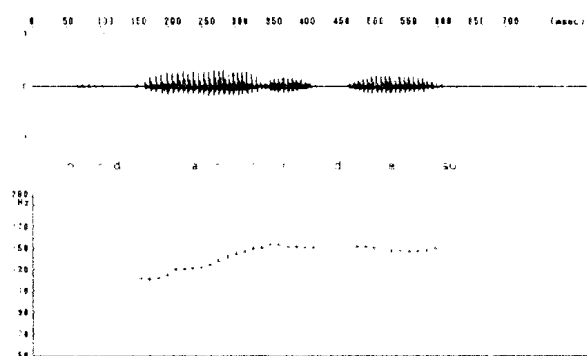


図4 Y: 「ひだり」(判定: 0)

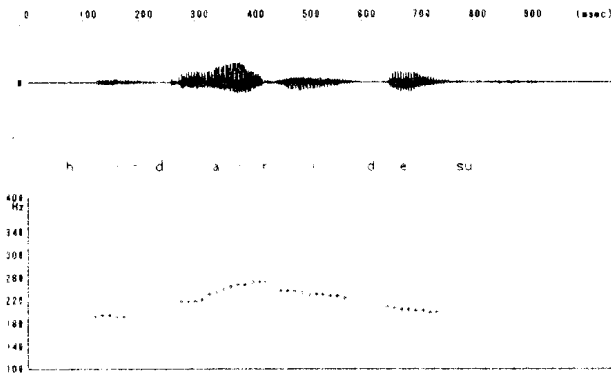


図5 東京語話者：「ひだり」

0型以外の型と判断された産出サンプルは11%だが、その中では、重音節にアクセント核が置かれたものが特に多い。ルール実現に失敗した可能性がある。

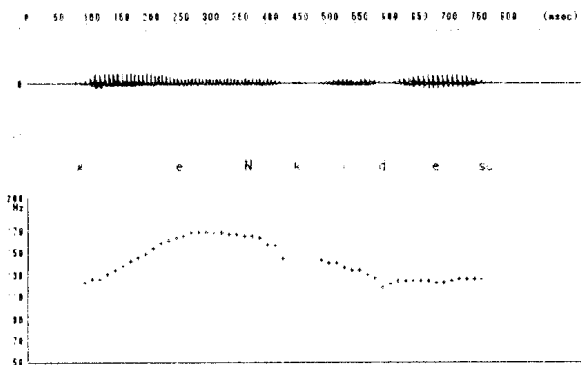


図6 Y：「げんき」(判定：-3)

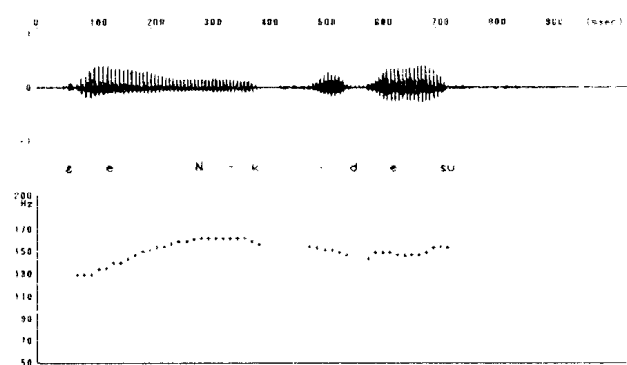


図7 「げんき」(判定：0)

### 6.1.3. Yのまとめ

Yは、日本語聞き取り能力をほとんど身につけていないため、産出においては、アクセントの代わりとなる、単純で実行しやすい単一型ストラテジーを使うように思われる。その結果産出される音声は、東京語話者の耳に0型のように聞こえる。このようなストラテジーはピッチを持続時間と強さから独立したパラメータとしてコントロールできることを示している。Yに対して今後アクセント教育を行う際には、この能力を積極的に利用すべきだと思われる。

## 6.2. Sの場合

### 6.2.1. Sの聞き取り

Yの37%に比べて、Sの聞き取り正答率は高い(71%)。チャンス回答では説明できない率なので、ある程度のアクセント聞き分け能力を身につけていると言える。それぞれの

刺激音声内のゆれは比較的少なく、同じ音声を同じように聞き取っている。一般的な音声聞き分け能力も Y より高いように思われる。また、特殊モーラに核があると回答することがなく、ある程度モーラ感覚が発達する可能性がある。

ところが、CVCVCV は、正答率があまり高くなく、-1 型と間違えた例が多い。重音節がなく、「つかみ所がない」ような音声を与えられて、と実験語自体よりそれに後続するキャリアセンテンスの部分に過剰に注目している可能性がある。なお、「みどり」が-2 と判定されたのは、隣接モーラよりラウドネスの高い [o] と有声子音の [d] の影響であろう。

CVRCV と CVNCV、つまり第 1 音節が重音節である実験語は、間違えて-3 と判断された例が多い：「どうぐ」、「どうぐ」、「びょうき」、「おんな」、「へんじ」。ゆれが見られるときも、-3 へとゆれる：「れいぎ」、「さんぽ」。このような傾向は Andreev (2000) で報告したが、ブルガリア人学習者によくあるパターンのものである。隣接音節より長い、強い重音節が、ブルガリア人の耳には有ストレス音節のように聞こえ、母語の聞き取り習慣を活性化させる原因になっていると考えられる。CVQCV でも似たような傾向が見られるが、同じ単語が 3 回とも間違えて-3 と判断された例は見当たらない。Andreev(2000)の結果でも、アクセント聞き分け能力が高い者ほど、促音に影響される程度が小さかった。

第 2 音節目が重音節の単語でも、似たような傾向はみられるが、それは-3 型の場合だけである。0 型の判断は重音節にまったく影響されていない。逆に、重音節とアクセント核が一致する場合、100%の正答率になっている。

### 6.2.2. S の産出

S は Y よりずっと複雑な産出傾向を見せる。アクセント核の位置は一定ではなく、たいてい場合は音節構造に左右される。次のような中間言語ルールを持っていると考えられる。

- 1) 重音節なし：-2 型
- 2) 重音節あり：重音節にアクセント核が置かれる。

たとえば CVCVCV の図 8~11 の単語は全部第 2 モーラにピッチ・ピークがあり、図 12 の日本語の「あなた」に近いピッチ曲線になっている。



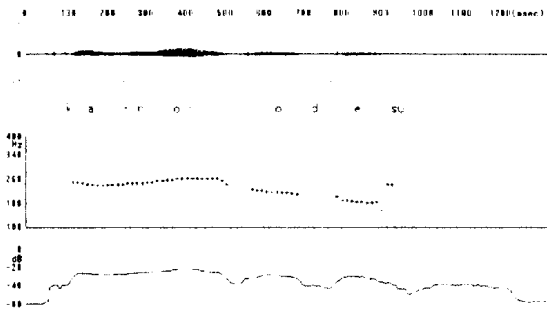


図8 S:「かのじょ」(判定: -2型)

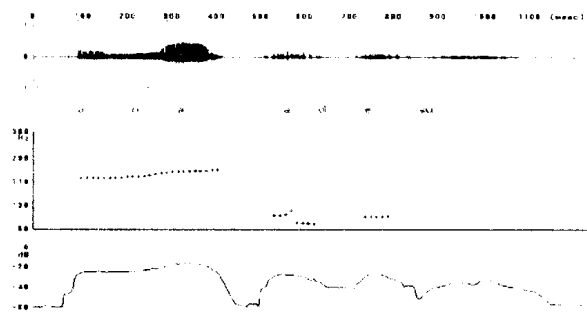


図9 S:「あなた」(判定: -2型)

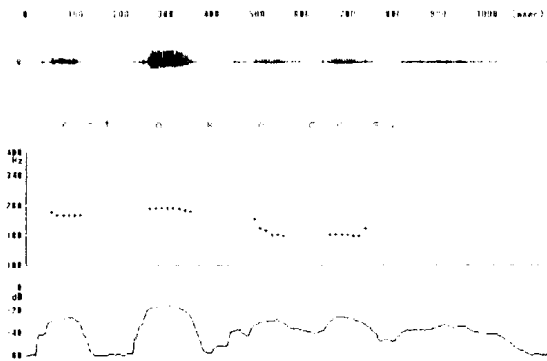


図10 S:「おとこ」(判定: -2型)

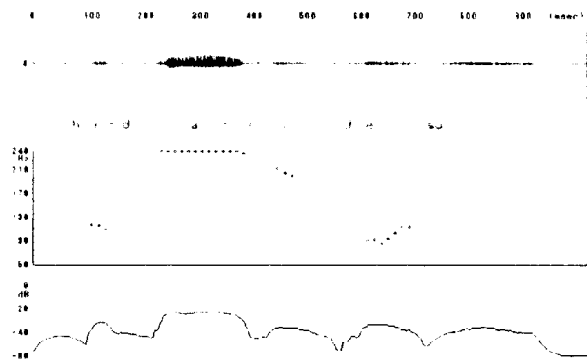


図11 S:「ひだり」(判定: -2)

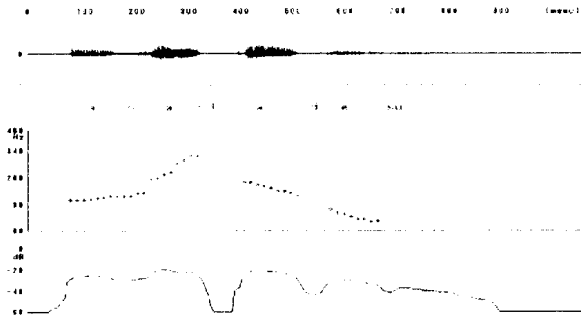


図12 東京語話者:「あなた」

強さもピッチと連動し、はっきりしたピークを形成している。その点ではブルガリア語のストレスアクセントに似ており、Sが無意識に「有核」モーラにストレスを置いている可能性がある。図13の「go`vorja」<sup>(4)</sup>(「話す」)の有ストレス音節と図11の「ひだり」の有核モーラの類似性ははっきりしている。有アクセント音節は隣接モーラより高く、強く、長く発音されている。

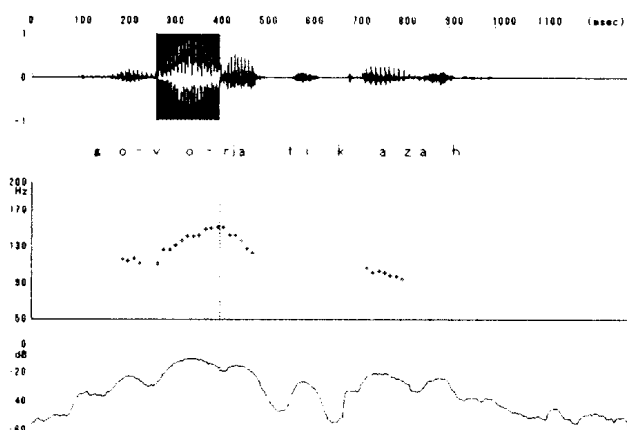


図13 ブルガリア語話者：「go`vorja」

ルールからはずれた例は比較的少ない。CVCVCVでは、「まくら」と「ころ」が3回とも-3型として発音されている。中間言語ルールに違反するこの発音が定着していることは、進歩の可能性を示唆している。

CVCVCV以外の音節構造では、ルールからはずれた例は0型へのゆれだけであり、0型としての発音が定着しているとは言えない。

### 6.2.3. Sのまとめ

Sの聞き取りはかなり正確だが、重音節に核が置かれる例があるということは、産出習慣の影響を受けている可能性を示している。一方、産出された音声のアクセント型はほぼ完全に音節構造に左右され、Sが持つ中間言語ルールから外れたアクセント型を用いる例はめったにみられない。しかし、相当の聞き分け能力を持った学習者であるため、より単語のアクセント型に注目させるような指導をすれば、発音の改善につながる可能性がある。

## 7.まとめ

YとSは2つのずいぶん異なる中間言語体系を見せている。Yは、アクセント聞き取り能力が極めて低いため、日本語のアクセントを完全に無視した独自のルールを使用している。ブルガリア語に存在しない0型の特徴を習得していることはある程度ピッチ・コントロールができることを示しており、発音を中心とした練習からアクセント指導を始めたほうがいように思われる。それに対してSは比較的高いアクセント聞き分け能力を持っているが、産出は母語の発音習慣の影響を強く受けている。アクセントをもともと意識していないからなのか、それともピッチ・コントロール能力が足りなかったのか、この調査でははっきりしないが、いずれにしても、聞き取り能力を生かした指導が必要であろう。

## 注

- (1) Dauer (1986)はいくつかの音韻的、音声的な特徴をもとに、“stressed-timed”性質の測定方法を提案している。“+”の数が多ければ多いほど、“-”が少なければ少ないほど性質は現れている。この方法では、ブルガリア語の得点は“+”：5；“0”：1；“-”：0、日本語の得点は：“+”：2；0：0；“-”：5
- (2) テストは、日本語能力試験の過去の問題から、1級、2級、3級の識別力の高いものを選んで作成した。
- (3) ここでいう「ルール」には学習者が意識して使うものと、無意識に使うもの、両方を指す。
- (4) ブルガリア語話者 (Smoljan 出身、30代、男性) の音声：2001年に日本国内で録音されたもの

## 参考文献

- 鮎澤 孝子・西沼 行博・楊 立明・小高 京子 1997 「北京語を母語とする日本語学習者の東京語アクセントの聞き取り」『日本語教育論文集 一小出 詞子先生退職記念一』凡人社
- Andreev, A. S. 2000 『ブルガリア人日本語学習者における日本語アクセントの知覚』東北大学大学院文学研究科提出修士学位論文。
- 助川 泰彦 1994 「日本語教育基本語彙のデータベース化」『東北大学留学生センター紀要』2.
- 助川 泰彦 1999 「ブラジル人日本語学習者の2モーラ語と3モーラ語のピッチ実現」『音声研究』第3巻 第3号. 日本音声学会.
- Dauer, R. M. (1987) Phonetic and Phonological Components of Language Rhythm. *Proceedings of XIth ICPhS, Tallinn, Estonia.*
- Dimitrova, Snezhina L. 1999 Димитрова, С.нежина Л. *Ритмична организация на английската и българската реч: съпоставително фонетично изследване* (英語とブルガリア語のリズム構造—対照音声研究) unpublished doctoral dissertation, presented at the University of Sofia, Faculty of Classical and Modern Languages.

資料1: Y

アクセント型 音節構造	-3型	-2型	1型	0型
CVCVCV	知覚 産出 かのじょ(彼女) 0:1:0 0:0:0 みどり(緑) -1:0:2 0:0:0 まくら(枕) -3:3:3 0:0:0	知覚 産出 こころ(心) -1:2:2 0:0:3 おもちゃ -2:1:2 -2:0:0 あなた -2:0:2 0:0:0	知覚 産出 ことば(言葉) -1:0:0 0:0:0 あたま(頭) 0:1:0 0:0:0 おとこ(男) -3:1:1 0:0:0 どうく(道具) -3:2:2 0:0:0 れいき(礼儀) -1:0:2 0:0:0 とっけ(峠) -2:2:0 0:0:0	知覚 産出 ひだり(左) 0:0:2 0:0:0 てかみ(手紙) 0:2:1 0:0:0 なまえ(名前) 0:1:2 0:0:2 ようし(用事) -1:3:2 0:3:0 びょうき(病気) 0:2:2 0:0:0 へいわ(平和) -2:0:0 0:0:0 りょこう(旅行) -1:0:1 -2:0:2 とけい(時計) -1:1:1 0:0:0 りゆう(理由) -1:1:1 0:0:0
CVRCV	くつき(空気) -2:2:2 0:0:0 どうろ(道路) -2:3:2 0:0:0 じゅうしょ(住所) -3:2:2 0:0:0	けししょう(化粧) -3:3:3 0:0:0 きとう(砂糖) -1:1:1 0:0:2 じゆう(自由) -1:3:3 0:0:0	おんな(女) -3:3:3 0:0:0 へんし(返事) -2:2:1 0:0:0 べんしょ(便所) -1:1:1 0:0:0	りんこ 0:0:2 0:0:0 かんじ(漢字) -2:0:0 0:0:0 さんぽ(散歩) -1:0:0 -2:0:0 しゃしん(写真) -2:2:1 0:0:0 じぶん(自分) 0:2:1 0:0:0 ねだん(値段) -2:2:1 0:0:2 おっと(夫) -1:0:0 0:0:0 みっか(三日) -3:3:1 0:0:0 ざっし(雑誌) 0:1:1 -3:0:0
CVCVR	じゅきょう(授業) -3:3:3 0:0:0 くろく(苦勞) -2:2:2 0:0:0 うちゅう(宇宙) -2:2:1 -2:0:0	にほん(日本) -3:2:1 0:2:0 てほん(手本) -3:2:2 0:0:0 にせん(二千) -1:1:1 0:0:0		
CVNCV	けんき(元気) -3:3:3 0:3:0 ぜんぶ(全部) -3:3:3 -3:0:0 ぶんか(文化) -3:2:2 0:3:3			
CVCVN	ごはん(ご飯) -3:3:3 0:0:0 ぶぶん(部分) -1:2:1 0:3:0 みかん(蜜柑) -2:3:3 0:0:0	ごはん(日本) -3:2:1 0:2:0 てほん(手本) -3:2:2 0:0:0 にせん(二千) -1:1:1 0:0:0		
CVQCV	こっか(国家) -3:3:0 0:3:0 いっか(一家) -3:3:3 0:0:0 とっち -3:3:3 0:0:0		こっち -1:3:3 0:0:0 むっつ(六つ) -3:0:0 0:0:0 やっつ(八つ) -3:2:3 -3:0:0	

資料2: S

アクセント型 音節構造	-3型	-2型	-1型	0型
CVCVCV	知覚 産出 かのじょ(彼女) -3:3:3 2:2:2 みどり(緑) -2:2:2 2:2:2 まくら(枕) -1:1:1 3:3:3 くつき(空気) -3:3:3 3:3:3 どうろ(道路) -3:3:3 3:3:3 じゅうしょ(住所) -1:3:3 3:3:3 じゅきょう(授業) -3:3:2 0:2:0 くろく(苦勞) -3:3:2 2:2:2 うちゅう(宇宙) -3:3:3 2:2:2 けんき(元気) -3:3:3 0:3:0 ぜんぶ(全部) -3:3:3 3:3:3 ぶんか(文化) -3:3:3 3:3:3	知覚 産出 こころ(心) -1:1:1 3:3:3 おもちゃ -1:0:1 2:2:2 あなた -2:2:2 2:2:2	知覚 産出 ことば(言葉) -1:1:1 2:2:2 あたま(頭) -1:1:1 2:2:2 おとこ(男) -1:1:1 2:2:2 どうく(道具) -3:3:3 3:3:3 れいき(礼儀) -3:1:4 0:0:0 とっけ(峠) -2:2:0 0:0:0	知覚 産出 ひだり(左) 0:0:0 2:2:2 てかみ(手紙) 0:0:0 2:2:2 なまえ(名前) -1:1:2 2:2:2 ようし(用事) -1:3:2 0:3:0 びょうき(病気) 0:2:2 0:0:0 へいわ(平和) -2:0:0 0:0:0 りょこう(旅行) 0:0:0 2:0:2 とけい(時計) 0:0:0 3:3:3 りゆう(理由) 0:0:0 2:2:2 りんこ 0:0:0 3:3:3 かんじ(漢字) -3:3:3 3:3:3 さんぽ(散歩) 0:3:3 3:3:3 しゃしん(写真) 0:0:0 0:2:0 じぶん(自分) -2:0:2 2:2:2 ねだん(値段) -2:0:0 2:0:2 おっと(夫) -1:0:0 3:3:3 みっか(三日) 0:1:3 3:3:3 ざっし(雑誌) 0:0:3 3:3:3
CVRCV	くつき(空気) -3:3:3 3:3:3 どうろ(道路) -3:3:3 3:3:3 じゅうしょ(住所) -1:3:3 3:3:3 じゅきょう(授業) -3:3:2 0:2:0 くろく(苦勞) -3:3:2 2:2:2 うちゅう(宇宙) -3:3:3 2:2:2	けししょう(化粧) -2:2:2 2:0:2 きとう(砂糖) -2:2:2 3:2:2 じゆう(自由) -2:2:2 2:2:2	おんな(女) -3:3:3 3:3:3 へんし(返事) -1:1:1 3:3:3 べんしょ(便所) -1:3:1 3:3:3	りんこ 0:0:0 3:3:3 かんじ(漢字) -3:3:3 3:3:3 さんぽ(散歩) 0:3:3 3:3:3 しゃしん(写真) 0:0:0 0:2:0 じぶん(自分) -2:0:2 2:2:2 ねだん(値段) -2:0:0 2:0:2 おっと(夫) -1:0:0 3:3:3 みっか(三日) 0:1:3 3:3:3 ざっし(雑誌) 0:0:3 3:3:3
CVCVR	じゅきょう(授業) -3:3:2 0:2:0 くろく(苦勞) -3:3:2 2:2:2 うちゅう(宇宙) -3:3:3 2:2:2	けししょう(化粧) -2:2:2 2:0:2 きとう(砂糖) -2:2:2 3:2:2 じゆう(自由) -2:2:2 2:2:2		
CVNCV	けんき(元気) -3:3:3 0:3:0 ぜんぶ(全部) -3:3:3 3:3:3 ぶんか(文化) -3:3:3 3:3:3			
CVCVN	ごはん(ご飯) -3:3:3 2:2:0 ぶぶん(部分) -2:3:2 2:2:2 みかん(蜜柑) -3:3:2 2:2:2	にほん(日本) -2:2:2 0:2:2 てほん(手本) -2:2:2 2:0:0 にせん(二千) -2:2:2 3:3:0		
CVQCV	こっか(国家) -1:1:3 3:3:3 いっか(一家) -3:3:3 3:3:3 とっち -3:3:3 3:3:3		こっち -3:1:3 3:3:3 むっつ(六つ) -1:1:1 0:3:3 やっつ(八つ) -3:1:3 3:3:3	